

楽しかったスキー教室

厚生部 夏原 寛治

去る1月8日(日)に、びわこパレイスキー場でスキー教室を開催しました。参加人数は19名。

久しぶりの「スキー」に、胸が「わくわく」、心は「ドキドキ」して、当日は5時半に目が覚めました。辺りはまだ真暗闇で、我が家の明かりだけが「ぼつん」と灯っているだけでした。逸る心を押さえながら、いざ出発進行。

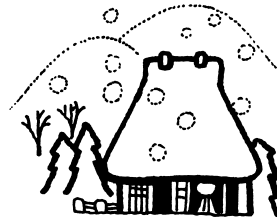
途中、肝心のスキーを私は持っていないことに気が付いたが後の祭り。今、ここで引返す訳には行かず、もう手遅れであることは百も承知でした。

目の前の真っ白な銀世界に、瞳はまばゆいくらいの反射を受け、何もかも忘れさせました。「山は白銀 朝陽を浴びて 滑るスキーの 風切る速さ」と、皆さんの童顔を思わせる楽しい笑顔で、企画して「よかったな」と嬉しく思いました。

怪我の人も無く、こんなそんなどで皆さんが楽しくシュプールを描かれておられたので、満足しながら家路へと向かいました。

ご参加いただきました皆様、お疲れ様でした。また、ご協力ありがとうございました。(今回の「スキー教室」で平成17年度の厚生部の行事も終了とさせていただきます。)





スキー教室に参加して

成人病センター 斉城 順子

12年か13年ぶりに「スキー」が出来るこの日を、私はワクワクして待っていました。独身の頃はよく行きましたが、残念ながら、夫は「スキー」をしない(出来ない)し、子供を産んでからはますます遠のいて、きっとこのまま「スキー」とは無縁の人生を歩いていくんだろうな...とすっかりあきらめていました。

そんな時、今回の「スキー教室」のお知らせを見て『小5と小2の娘たちも「スキー」が出来るようになれば、私も「スキー」に復活出来るな...しめしめ...』という思いで申し込みました。

さて当日、さすがに3連休の中日で混雑し、ゴンドラ待ちで一時間近くかかり、やっとの思いで集合場所へ。そんなことを想定されていた他の方々は、私たちが着く頃には、すっかり、ひと滑りされていたようです。

いよいよ「スキー教室」が始まります。生徒2人、先生3~4人。生徒の娘たちは初体験でどうなるのだろうと心配しましたが、恐がりの長女も文句言いの次女もびったりと先生に付いてもらったおかげで、みごとに滑れるようになりました。

先生になって下さった方々、本当にありがとうございました。

私はというと、家の押入れに眠っている20年前のスキー板は見るのも恐く(変質しているようで)当日、子供等が滑れるようになって、時間があればレンタルするつもりで、手ぶらで来たのですが、これからという時に運悪く吹雪いて来ましたので、後ろ髪を引かれる思いで帰ることになりました。残念ながら「スキー」復活はお預けとなりました。